

国際・災害対策委員会 基本方針（案）

国際・災害対策委員会 委員長 船津 和弥

1 昨今、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、人と人との密なコミュニケーションが制限されている中で、国際交流事業において従来の形式を用いた交流を推し進めて行きたい反面、見直された手段オンラインを使った交流も視野に入れた取り組みもしつつ災害においても、10年前の東日本大震災を始め、熊本や佐賀でも災害が多発している現状があり、一般社団法人佐賀青年会議所だけでなく他団体と協力していく必要があります。

7 まずは、諸先輩方が1985年から継続されてきた姉妹JCである社團法人台南市新營國際青年商會との交流が37年目を迎え、佐賀青年会議所一同総力を挙げ、心からのおもてなしをすることで、新營JCとこれまで以上の繋がりを強固なものにします。また、新營JCと佐賀青年会議所の交流だけでなく他団体を含めた交流をするため、合同で交流できる場を提供することで、対外に向けて佐賀青年会議所のさらなる魅力を発信します。さらに、日本の文化や歴史に触れて頂くために、佐賀の観光資源や伝統文化を体験することで、楽しく過ごして頂きます。災害においても被災地の情報が必要とされている物資を迅速かつ効率の良い行動がとれるように、新たなガイドラインを創出し、佐賀青年会議所が率先して他団体と連携を取りあえる関係性を創ります。

16 混沌とした世界情勢の中で、国際交流を通じ他団体との連携を深め、改めてこの地元佐賀の素晴らしさ、人と人との出会いに感謝し、個人の成長につなげるとともに、現在（いま）を生き抜き次代へつないで参ります。

19

20

21 [事業計画]

- 22 1. 新營JC受入れ・会務交流会議の企画・運営（9月）
- 23 2. 裸ん行（大川）参加者への支援（2月）
- 24 3. 例会の企画・運営（3月）
- 25 4. ASPAC（台湾／台中）参加者への支援（6月）
- 26 5. JCI世界会議（南アフリカ／ヨハネスブルク）参加者への支援（11月）
- 27 6. 会員拡大 拡大目標 委員会5名（通年）